

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第7週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第7週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第7週（令和5年2月13日から令和5年2月19日まで）

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.56人と前週（10.21人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.03人と前週（8.68人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“E型肝炎の報告が続いています！” について取り上げました。

川崎市における令和5年のE型肝炎の報告数は、過去5年で最多であった昨年に引き続き、本年も報告数が多い状況が続いており、令和5年第7週（2月13日～19日）までに、すでに計4件となりました。

E型肝炎は、主にE型肝炎ウイルスに汚染された水や食物を摂取することで感染するとされており、国内においても、生又は加熱不十分な肉等の喫食が感染の原因と推定された事例が複数あります。E型肝炎ウイルスは、加熱により感染性を失うため、豚レバーやイノシシ肉、鹿肉等は、中心部まで十分に加熱してから食べましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

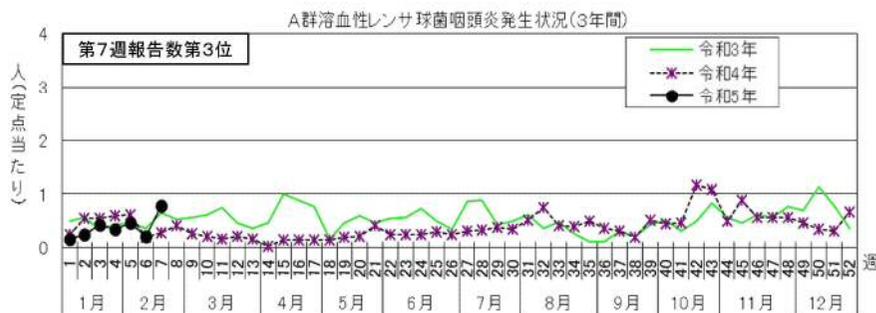
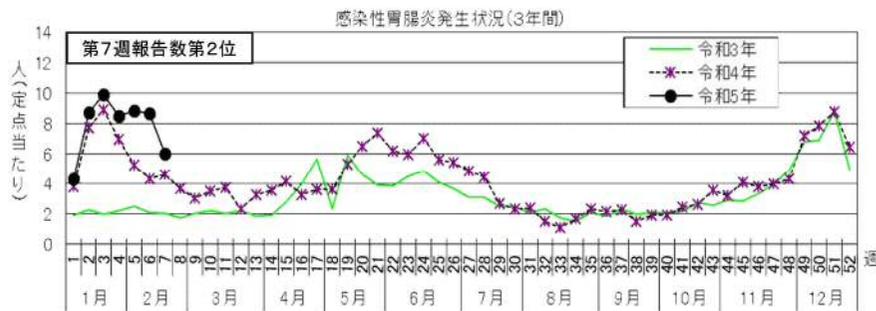
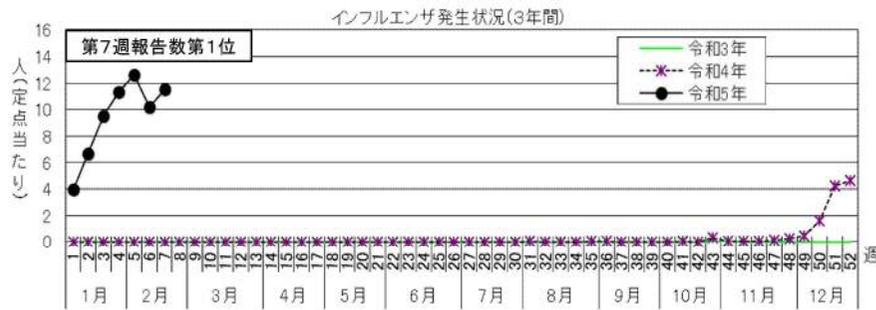
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年2月13日（月）～令和5年2月19日（日）〔令和5年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.56人と前週（10.21人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.03人と前週（8.68人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

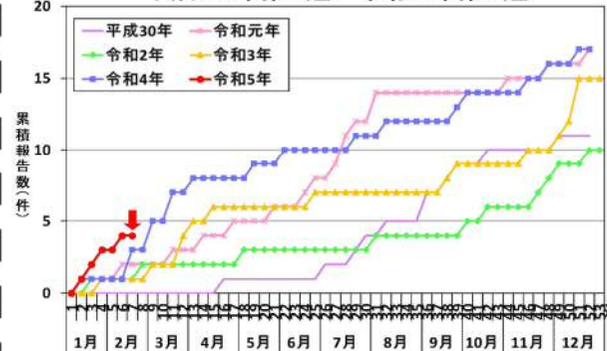


E型肝炎の報告が続いています！

川崎市における令和5年のE型肝炎の報告数は、過去5年で最多であった昨年に引き続き、本年も報告数が多い状況が続いており、令和5年第7週（2月13日～19日）までに、すでに計4件となりました。

E型肝炎は、主にE型肝炎ウイルスに汚染された水や食物を摂取することで感染するとされており、国内においても、生又は加熱不十分な肉等の喫食が感染の原因と推定された事例が複数あります。E型肝炎ウイルスは、加熱により感染性を失うため、豚レバーやイノシシ肉、鹿肉等は、中心部まで十分に加熱してから食べましょう。

川崎市におけるE型肝炎の累積報告数の推移
-平成30年第1週～令和5年第7週-



E型肝炎とは？

【病原体】

E型肝炎ウイルス

【潜伏期間】

2～9週間（平均6週間）

【主な症状】

発熱、食欲不振、悪心・腹痛等の消化器症状、倦怠感、黄疸など
※不顕性感染が多いが、稀に劇症化する。

【主な推定感染原因】

生又は加熱不十分な肉等の喫食（豚レバー、イノシシ肉、鹿肉等）

【治療法】

対症療法

【予後】

比較的良好であり、自然軽快する例が多い。
※妊婦が感染した場合は劇症化しやすく、致死率が20%に達することがある。

